

【社員行動指針五か条】

・『自分を曝け出し、真の対話をします』

真の自分を出さずに相手からの理解を得ることはできません。更には相手を理解することもできません。互いの理解を深めるには、まずは自分の前の壁を取り除く必要があります。率直な意見や遠慮のないやり取りにおいて、時には衝突することもあるかもしれません。

しかし、素直な心を持ち、飾らない姿勢での対話を重ねることで、結果的に信頼で結ばれた強固な組織を作り上げることができます。

・『社員は家族。どんな困難な時も支え合い、助け合い、協力し合います』

家族とは絆で結ばれた特別な存在です。家族であれば困っている時に助け合い、協力し合うことは当然です。そこには一切の駆け引きや利害関係もありません。家族のような関係並びに絆を、社員間にも築き上げていくことで、社内でも当然の慣習として、協力や支援の動きを呼び起こしていくことが可能となります。

そして、社員が気兼ねなく安心して業務に取り組むことで、実力も遺憾なく発揮することができ、高い成果に繋げることができます。

・『誠実、謙虚、思いやりと感謝の気持ちを持って人と接します』

誰しも一人で生きていくことはできません。これまでの人生において、どれほどの助けや支えを受けたことでしょうか。その恩恵に対する感謝の気持ちを忘れず、相手の気持ちを思いやり、相手の意見に耳を傾け、理解しようとする姿勢が信頼の獲得へ繋がります。

何事にも誠実に取り組み、誰に対しても謙虚な姿勢で接することで、相手から感謝、尊敬される人材になることができます。

・『常に自分に厳しく、自らよく考え、主体性を持って行動します』

人は楽を求めてしまう生き物です。何らかの理由を見つけ、自らを正当化し、緩やかな道を選ぶことが得意です。しかし、それでは真の成長を求められません。思い描く希望や理想を求めるには何が必要か、目的を達成するには何をすべきか。人は考える生き物でもあります。ただし、考えるだけでは何も生まれません。

考えた結果、自らが主体となって行動を起こすことで、初めて真の成長に繋げることができます。

・『明確な目標を掲げ、達成に向けて強い意志を持ち粘り強く行動します』

目標へ向けた努力であれば実力がつきます。目標を持たない努力は、往々にして努力することが目標となってしまいます。それでは自己満足に過ぎません。達成への過程で、苦労や苦難が大きいほど、達成した時には大きな喜びや感動が得られます。

達成に向け、持てる力を最大限に発揮し、どんな困難があろうと、目標を見失わず継続することで、着実に目標に近づき、最終的に達成することができます。

以上